

大樹寺



▲木造 阿弥陀如来坐像 (本堂・木造) 県文化財 平安末期
一光千体阿弥陀如来で後背の千体もの阿弥陀仏と共に慈悲にみちたお顔で私たちに救いの手をさしのべている。

徳川家康公遺訓
人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し急ぐべからず不自由を常と思えば不足なし心に望み起らば困窮したるときを思ひ出すべし堪忍は無事長久の基怒りは敵と思え勝つことばかり知りて負くることを知らざれば害その身に至る己を責めて人を責むるな及ばざるは過たるより勝れり



▲本堂 文明7年(1475)松平四代親忠公が勢誉愚底上人を開山として創建。安政2年の火災により焼失、安政4年(1857)徳川十三代将軍家定公再建。本堂は間口十五間、奥行十三間の大伽藍。先づ本堂に参拝し、文化財収蔵庫、位牌堂を経てから境内を巡るとよい。大方丈、文化財収蔵庫、位牌堂は有料。



●大樹寺への道案内

- * JR岡崎駅下車、駅前より大樹寺行きバスにて終点下車 徒歩10分
- * 名鉄東岡崎駅下車、駅前より大樹寺行きバスにて終点下車 徒歩10分 (JRより8km、名鉄より4km) 国道248号線沿い
- * 岡崎城より3km 車で10分
- * 東名高速道路 岡崎インターより車で20分
- * 伊勢湾岸自動車道 豊田東インターより車で15分

大樹寺のしおり

松平家・徳川家の菩提寺として名高く、成道山松安院と号し、文明七年(一四七五)松平四代親忠(家康より六世の祖)の創建したものである。

本尊阿弥陀如来は平安末期の作と云われ、光背に千仏を宿すところから別名、一光千体仏ともいわれ、円満の相好は拜する者をして清浄の信心を起さしめる。開山勢誉愚底上人は松平親忠に浄土の奥義、結縁五重を相伝したところから、この寺は浄土宗の五重相伝根源道場として知られている。

家康十九才の時、桶狭間合戦により、今川義元が倒れたので身の危険を感じ、大高城から大樹寺に逃れ、十三代住職登誉上人に先祖の墓前で自害すべく覚悟のほどを表わすと、上人の言葉は「厭離穢土、欣求浄土」(おんりえどごんぐじょうど)の経文―戦国乱世を住みよむ浄土にするのがお前の役目―と訓し、惱める家康を翻意させ、家康はこの八文字を終生座右の銘とした。又この時家康を迫る野武士の一族が大樹寺を囲んだが、寺僧の一人祖洞和尚が門のカンヌキを引き抜いて打って出て、七十人力で阿修羅の如く戦い、敵を退散せしめた。後に家康はこのカンヌキを立志開運「貫木神」と命名。今も大樹寺に安置されている。家康の人生観の確立と一代の危機を救った大樹寺は、家康の遺命の一条に「位牌は三河大樹寺に祀るべきこと」とあるにより、徳川歴代将軍の等身大の位牌が安置されている。毎年四月十七日には御神忌法要が営まれ家康公の遺徳を讃える法要が厳修されている。

おもな年中行事

1月1日 修正会	5月(第三日曜日)人形供養
1月17日 初観音	8月6,7日 暁天講座 6,7日 盆施餓鬼会 7日 放生会
2月3日 節分会	9月17日 おひがん
2月25日 法然上人御忌	11月14日 お十夜
3月17日 おひがん	12月8日 成道会
4月17日 御神忌 (家康公御命日法要)	12月31日 除夜の鐘 お火たき

〒444-2121 岡崎市鴨田町字広元5-1

電話(0564)21-3917 FAX(0564)21-3215

ホームページ <http://home1.catvmics.ne.jp/~daijuji/>

E-mail daijuji@m3.catvmics.ne.jp



▲**多宝塔** 天文4年(1535)松平清康公建立
一層は方形、二層は円形の格調高い多宝塔である。
最も古い建物、足利末期に出来た多宝塔の美しさはたどえようもない。 国重要文化財



▲**廟所** 松平四代親忠公は大樹寺創建の際、先祖三代の墓を移祭し、廟所を創建、元和3年(1617)家康公一周忌にあたり、二代將軍秀忠公は先祖松平八代の廟所を修復再建した。親忠公以下の墓石には「奉再興五輪元和三曆南呂(八月)十五日」と刻まれている。
昭和44年4月岡崎市民により家康公の遺徳を顕彰し遺品を納めた墓と碑が建立された。

市指定史蹟



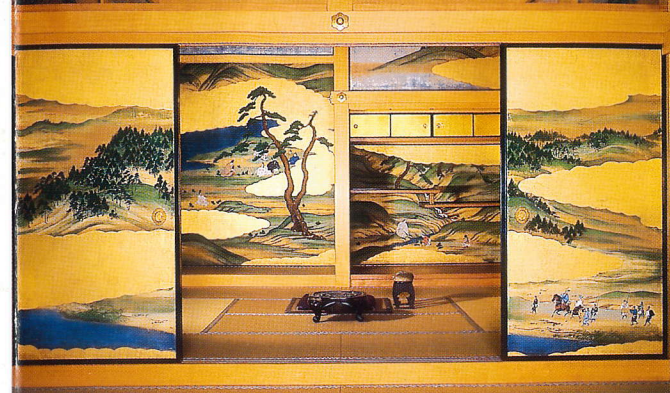
▲**大樹寺山門** 寛永18年(1641)三代將軍徳川家光公建立
楼の上に後奈良天皇御宸筆「大樹寺」の勅額(重要文化財)が掲げられている。また釈迦三尊十六羅漢を安置している。
境内から山門、総門をとおして、その真中に岡崎城が見える。
県指定文化財



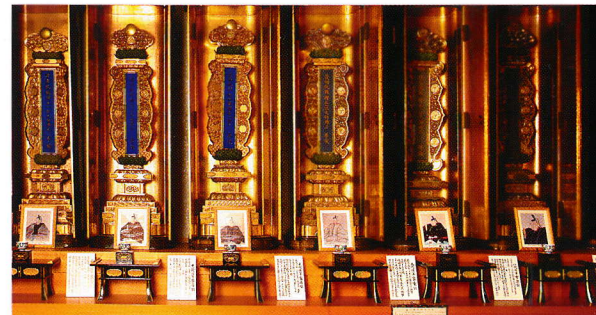
◀**家康公木像** 慶長19年(1614)先祖追善供養のため身代りの姿として安置し、我れ亡きのちもそのまま止めるよとの遺命により、位牌堂に安置されている。戦前の国定教科書に載っていた家康公の写真はこの木像である。(有料)
市指定文化財



▲**山門より岡崎城を望むビスタライン** 三代將軍家光公が山門から岡崎城を望めるように伽藍を整備した。
以来370年近くこの眺望をささげる建物が建設されておらず、岡崎市民の歴史に対する思いが今に伝わる貴重な景観になっている。



▲**襖絵 將軍御成りの間** 安政4年(1857)復古大和絵師、冷泉為恭(れいぜいためちか)の大作で平安時代、円融天皇、子の日の御遊図で(46面)ある。他に為恭の絵100面がある。
(有料) 国重要文化財



▲**松平八代・徳川歴代將軍位牌** 家康公の命により松平八代と徳川歴代將軍の14代までの位牌を安置している。
徳川將軍の位牌は等身大(亡くなった時の身長)で作られている。
(有料)

▶**鐘楼** 寛永18年(1641)三代將軍徳川家光公建立
楼上の大鐘は九代將軍家重公改鑄の名鐘である。
県指定文化財

